

遅発中性子ワーキンググループ平成12年度第一回会合議事録

開催日時：平成12年11月28日(金) 13:30 - 17:30(武蔵工大)

出席者： 青木繁明(三菱重工：田原代理)，岡嶋成晃(原研)，親松和浩(愛知淑徳大)，片倉純一(原研)，桜井健(原研)，瑞慶覧篤(日立)，中川庸雄(原研)，中島健(原研)，吉田正(武蔵工大)

配布資料： a. 前回会合議事録(吉田委員)

b. FCA, MASURCA, TCA の β_{eff} 実験解析に基づく JENDL-3.2 の遅発中性子収率の修正(桜井委員)

前回議事録(資料 a: 00/03/17)を確認したのち，以下の報告都議論があった。

1. 作業経過報告

- 1) 資料bに基づき，U-235，U-238，Pu-239 のvd データの Adjustment について桜井委員より報告された。FCA，MASURCA の5つの高速体型に TCA の熱中性子炉体型(1,83U 円筒ウラン炉心)を加え，6体型の β_{eff} 実験を用いて，スターターとして採った JENDL-3.2 の遅発中性子収率の修正を行ったもので，U-238 でvd が 0.0465 と，マイクロデータとも整合的な結果となっている。

2. 議事

- 1) これまでの作業の進め方，Step 1)実効遅発中性子割合の実験解析からまず vd の値を決め，Step 2)ペリオド法やロッドドロップ法による反応度測定実験解析結果から各群の遅発中性子割合と崩壊定数につき何らかの知見を引き出してフィードバックする，という二段階法にそって今後も作業の詰めをおこなう。
- 2) Step 1)についてはほぼ目処がたったが，さらに VHTRC のデータの活用も試みる。また，Step 2)については VHTRC-1，TCA1.83U，TRACYRun58 各炉心の解析に基づき，改訂された6群定数の当否を更に詰めて行くこととした。
- 3) JENDL-3.3 が完成し炉定数が利用可能となり次第，断面積も遅発中性子データも JENDL-3.3 を用いた整合性のある解析を行い作業の締めくくりとする。
- 4) 以上の作業とレポート(ND2001 および原研レポート)の作成のため，当WGをあと一年間継続することを運営委員会に提案する。

3. 今後の作業

- 1) 標記vd の adjustemnt を更に継続し，VHTRC のデータの活用を試みる(桜井，岡嶋，中島委員)。
- 2) これまでの結果をまとめ ND2001 で報告するとともに，作業報告書を作成する(全員)。